



みんなの声

01

- ・精神科の往診してくれるところは？
- ・夜間聞いてもらえるところがあれば良い
- ・体調が悪化した時の24時間対応
- ・臨床心理士などに相談できれば

02

- ・当事者や家族がなんでも話せる場があれば
- ・気軽に集える場、自分の想いを話せる場
- ・障がいの有無に関わらず地域の方と交流できる場
- ・同じ障がいを持つ人たちと触れ合える場所
- ・ひきこもりの方々の居場所

03

- ・知識、経験がないと支援が難しい
- ・精神の方の支援を経験したことがない
- ・医療的知識（多様な疾患の主症状と基本的な対応方法）福祉としての対応、精神薬の知識
- ・家族での看護のコミュニケーションの方法

04

- ・地域での生活ぶりが十分に伝わらない
- ・相談支援専門員を認知していない医師もいる
- ・福祉職員の同行を快諾して欲しい
- ・医師と情報をやりとりする術がない
- ・訪問看護や介護と交流の場があれば

05

- ・長期的な将来（10～30年後）について相談できる場所がない
- ・親族がないかアテに出来ない場合の「親亡き後」を託す人的資源の不足
- ・家族で抱え込んでしまう
- ・親亡き後が最大の悩み

06

- ・重度の精神障がいがある方を支援できるグループホームがあまりないのでは
- ・賃貸など契約を嫌がられる、入居拒否
- ・周囲の理解が難しく孤立してしまう
- ・住民の理解を得る事

07

- ・理解は進んでいない。地域に精神障がいの施設があるだけでも嫌がっている。
- ・理解よりも存在を知らないと思う
- ・精神疾患についての知識の普及が大切
- ・根深く偏見はある。啓発活動が大事。



考えられる案

既存のウェブサイト「ココスル」を活用することも可。

## 情報発信・見える化

- ・精神科訪問看護の情報集。体制、特色がわかれば良い。
- ・精神科医療機関や精神障がいに関する医療、心理的ケアなどの情報集

## 居場所・交流の場・活動の場

- ・「場」を作れば。地域のカフェなどを使っては？
- ・「悩みを話せる」「同じ趣味がある人が交流する」など、気軽に集える場所づくり。

(ピアサポーターの活用)

- ・当事者目線で想いを聞いてほしい
- ・同じ悩みを抱える人たちの支援や活動への参加
- ・気軽に集まれるような機会を作って欲しい
- ・ピアサポーターが役割を持つ場があれば良い

## 学ぶ・スキルアップ

- ・事例を通じて学ぶ機会があれば
- ・医療的な視点でのスーパーバイズ
- ・保健所の研修など既存のもので使えるものもある

## 医療との連携

- ・本人の病状や地域生活におけるニーズ、情報をどのように伝えるか（スキームの明確化？実際は個別性が高い）
- ・医療職（精神科CW等）と地域の支援者との交流の場（相手がわかれば連携しやすい）

## 親なき後

- ・どのような制度があり、いつ繋がるべきかなどライフステージごとの情報発信
- ・家族として準備しておくべきことの情報提供
- ・未介入、未受診など支援が必要だが繋がっていない人がいる（8050問題）

## 住まいの確保

- ・不動産屋への理解促進
- ・居住支援法人との連携
- ・グループホームなどの支援力の向上

## 理解促進・差別解消

- ・触れ合ってもらうことが効果的では（イベント、交流会など）
- ・研修、講座など学習の機会
- ・事業所などを知ってもらう機会をつくる
- ・学校教育での取組み強化

